The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	World Wide Views in JAPAN : 日本からのメッセージ : 地球温暖化を考える
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12910
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

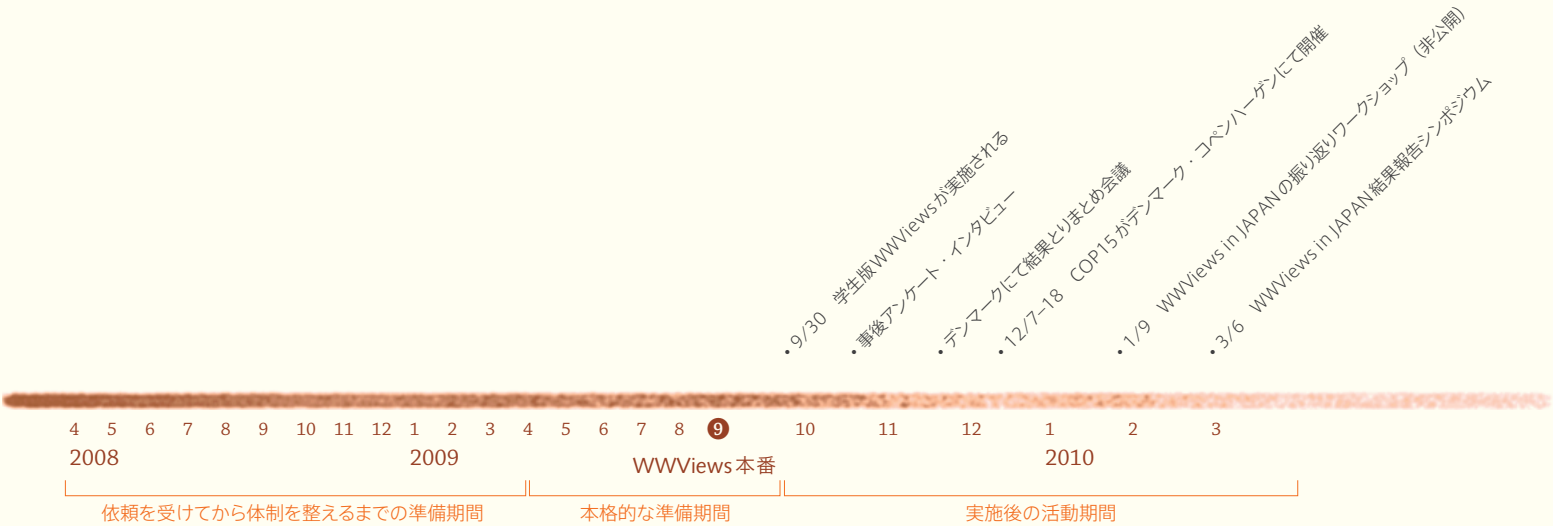
–Story 4–

2009.10-2010.3

WWViews本番以降も活動はまだまだ続く。

WWViewsが終了した後は、4000人の世界市民の声をCOP15に届けるための政策レポートの作成作業が、急ピッチで進められました。
日本国内においては、それと並行して、今後の日本における地球温暖化問題への取り組みを見据えた上で、WWViews in JAPANの試みがどのような意味を持つのかについての総括を行いました。

WWViews全体の流れとこの時期の主なトピック



・2009年　10月8日～9日

政策レポートの作成

WWViewsにおける全世界の結果をふまえて、COP15へ政策提言を行うための政策レポート※5の作成が、デンマークにおいて行われました。

　8カ国11人のメンバーが参加し、日本からも2名のメンバーが参加しました。

※5：関連資料 ▶ 記録集⑤

・2009年　11月9日

デンマーク国会にて公表

政策レポートの内容は、デンマーク国会において各国大使向けに説明されました。

・2009年　12月7日～18日

気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）デンマーク・コペンハーゲン

・2009年　12月9日

KlimaForum09

世界のNGOを中心とした気候変動問題に関する会議であるKlimaForum09にて政策レポートのPRが行われました。

・2009年　12月10日

COP15のサイドイベント

Bella CenterにおけるCOP15のサイドイベントにて政策レポートのPRが行われました。

左から、
北海道大学 三上直之
財団法人未来工学研究所 濱田志穂
東京大学 神里達博
衆議院議員 末松義規
東京電力株式会社 桝本晃章
特定非営利活動法人気候ネットワーク 浅岡美恵
独立行政法人国立環境研究所 江守正多
上智大学 柳下正治
大阪大学 小林傳司
※敬称略

• 2010年 3月6日

東京アキバホールにて結果報告シンポジウム※6

WWViewsの場では、ふつうの人々によってどのような議論が行われたのか。そして、人々はその議論をどう感じたのか。その結果はどのようなものだったのか。ふつうの人々の議論は、政策決定者にはどのように受け止められたのか。

　このような観点から、WWViews in JAPANの市民参加者と共に議論に参加したグループファシリテーター、地球温暖化問題の専門家、そして政策決定者が一堂に介し、WWViews in JAPANの経緯と結果について報告すると同時に、その経験を振り返るためのシンポジウムを開催しました。

※6：関連資料 ▶ 記録集③ P67-104

Epilogue

WWViewsの開催から一年が経とうとしています。準備期間は毎日が戦場のような状態で、多数の、こまごまとした、そして性質の違う作業を同時並行で進めなければなりませんでした。今になってようやく、少し振り返る余裕ができてきたように感じています。

このようなグローバルな市民会議の開発段階から参加し、実施するという作業は私達にとっては貴重な経験でした。今思うのは、日本の立ち位置の微妙さについてです。リーマンショック直後とは言え、難航しつつも開催資金を調達することができました。地球温暖化問題の専門家や国際交渉の専門家、そして市民参加型会議の専門家を日本全国からきちんと集めたチームも作ることができました。そのおかげで、デンマークから届く市民向け情報資料のドラフトや市民に議論してもらう問いのドラフトに対しても、内容を吟味し、英語でコメントを返すことができました。しかしこれだけの人的資源、資金を動員できる国が、世界にどれだけ存在したのでしょうか。事実、いくつかの国は途中で脱落しています。1年半にわたるプロジェクトの準備期間中、英語でのコメントを返していたのは、欧米の国を除くと日本だけだったのです。

今後、このような会議の企画は増えていくのではないでしょうか。なぜならば、この手法は地球温暖化問題だけでなく、ほかの問題にも使える可能性があるからです。グローバルな市民参加会議という言葉は美しいですが、欧米中心であることは否めません。日本はこれからこのような呼びかけにどう対応していくのでしょうか。単なるフォロワーにならないための、社会的、知的体力が今問われていると感じています。

最後に、WWViews開催のためにご支援いただいた研究助成機関、企業の皆様に、心より御礼申し上げます。皆様のおかげで、この貴重な社会実験を日本でも実施できたのですから。

World Wide Views in JAPANについて

開催日　2009年9月26日（土）　※世界同日開催

開催場所　京都市勧業館みやこめっせ（京都市左京区）

主催　大阪大学
上智大学

共催　北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット（CoSTEP）

協賛　稲盛財団
ダイワボウ情報システム株式会社
阪急電鉄株式会社
住友商事株式会社
三井造船株式会社
株式会社大林組
株式会社竹中工務店
パナソニック株式会社
アステラス製薬株式会社
伊藤忠商事株式会社

後援　京都府
京都市
大阪府
大阪市
独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
財団法人地球環境センター

アドバイザリーボード　敬称略・五十音順

浅岡美恵（特定非営利活動法人気候ネットワーク代表・弁護士）
西岡秀三（独立行政法人国立環境研究所 特別客員研究員）
桝本晃章（東京電力株式会社 顧問）
村上陽一郎 ※1（東京理科大学大学院 教授）
※1：委員長

実行委員会　敬称略・五十音順

小林傳司 ※2（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授）
杉山滋郎（北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット 代表）
鈴木政史（国際大学大学院国際経営学研究科 専任講師・副研究科長）
三上直之（北海道大学高等教育機能開発総合センター 准教授）
八木絵香（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師）
柳下正治 ※3（上智大学大学院地球環境学研究科 教授）
※2：実行委員長　※3：実行副委員長

※所属・肩書きはすべて2009年当時

本プロジェクトの日本での開催に当たっては、多くの方々のご支援をいただいたことを申し述べておきます。本報告書の巻末に今回のプロジェクトの企画・運営に係わった方々のお名前を記し、深く感謝する次第です。

平川秀幸
春日匠
山内保典
中塚裕二
福島杏子
山口梓
島田幸司
太田絵里
山本芳華
山田久美子
濱口真衣
久保田テツ
寿楽浩太
神里達博
宮入隆
伏見和弘
横川修
水野洋子
関嘉寛
伊藤真之
新海洋子
濱田志穂
森岡和子
杉山範子
西修
永井克治
丹羽陽子
大滝あや
東末真紀
川中大輔
中村征樹
菅磨志保
秋山泰洋
繁田浩功
諸岡七美
八百伸弥
戸田美樹
米坂真司
佐藤桃子
大田淳史
後藤直幸
浜田剛
上野直遵
水野拓
ショー・ロバート
松尾真恵
神田裕士
シェファラ・マルチン
高橋正樹
中井理恵
佐藤大樹
塩飽義大
松田健太郎
中川智絵
左海知里
川上雅弘
石田峰洋
小林竜子
中田陽子
春木彩
朱喜哲
鈴木径一朗

World Wide Views in JAPAN 記録集　|　① **フォトファイルズ**

発行　World Wide Views in JAPAN 実行委員会
発行日　2010年9月

企画・編集　八木絵香
記録集デザイン　清水良介
DVD制作　久保田テツ

印刷　能登印刷株式会社

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）内
〒560-0043　大阪府豊中市待兼山町1-16
Tel 06-6850-6632　Fax 06-4865-0121
http://wwv-japan.net/
contact@wwv-japan.net

FSC
ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-004294
© 1996 Forest Stewardship Council
VEGETABLE OIL INK